

【普通作物】の【長雨・日照不足】対策について <8月>

宮崎県総合農業試験場専門技術センター

【早期水稲】（登熟期～成熟期）

（1）予想される被害状況

- ① 登熟不良により、収量及び品質が低下しやすくなる。
- ② 成熟期頃の稲では、穂発芽が発生しやすくなる。
- ③ 土壌が柔らかい場合、収穫作業が困難となる。
- ④ 収穫時の籾水分が高いと、コンバインのこぎ胴での損傷が生じやすい。
- ⑤ 水分の高い籾を、急激に高温で乾燥すると玄米の品質低下が生じやすい。

（2）事前対策

- ① 収穫5日前迄間断かん水を行い、根の活力維持を図る。
- ② 穂発芽の多い箇所は刈分けして、全体の品質が低下するのを防ぐ。
- ③ 収穫作業に向けて排水に努め、できるだけ土壌を固める。
- ④ 高水分の籾をコンバインで収穫する際は、こぎ胴の回転数を調整する。
- ⑤ 高水分の籾を、火力乾燥する場合は通風を十分にを行い徐々に温度を上げる。

（3）事後対策

- ① 穂発芽が多発した場合は、刈り分けして全体の品質低下を防ぐ。
- ② 浸水等でほ場に流入しているゴミは早めに取り除く。

【普通期水稲】（幼穂形成期～穂揃期）

（1）予想される被害状況

- ① いもち病が発生しやすくなる。
- ② 生育が軟弱となり根の活力が低下する。

（2）事前対策

- ① 長雨下での液剤や粉剤防除は時期を逃しやすいが、散布後に薬剤が乾けば効果はあるため、天候をよく確認しながら防除を行う。なお粒剤を使用する場合は、多雨での流出（オーバーフロー）に注意する。
- ② 葉色の濃いほ場では追肥量を減らしたり時期を遅らせる。
- ③ 飽水管理や間断かん水で根の活力維持を図る。

（3）事後対策

- ① 出穂前後のいもち病防除は、時期を逃さないよう計画的に行う。
- ② 浸水等でほ場に流入しているゴミは早めに取り除く。

【大豆】（生育期～開花期）

（１）予想される被害状況

- ① 湿害により生育不良となる。
- ② 紫斑病が発生しやすくなる。

（２）事前対策

- ① ほ場周囲及び畦間に排水溝を設置する。
- ② 開花期以降の場合は、天候をみて紫斑病の防除を行う。

（３）事後対策

- ① 紫斑病の防除を行う。
- ② 浸水等でほ場に流入しているゴミは早めに取り除く。

【秋ソバ】

（１）予想される被害状況

- ① 播種作業が遅れ、収量が低下する。
- ② 湿害による発芽障害や生育不良が発生する。

（２）事前対策

- ① ほ場周囲及び畦間に排水溝を設置する。
- ② 播種時期の遅れに応じて、播種量を多くする。

（３）事後対策

- ① 欠株が多い場合は、播き直しを行う。